

認定中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する報告

平成24年6月
和歌山市（和歌山県）

全体総括

○計画期間：平成19年8月～平成24年3月（4年8月）

1. 計画期間終了後の市街地の状況（概況）

認定された基本計画に基づき、『歩いて暮らせる賑わいあふれる城まち』を目指して各事業を実施した。

ハード事業において、中心商業地の商業ビル跡地を利用した複合施設「フォルテワジマ」は年々来館者が増加し、集客の拠点となっており、また、本市初の再開発事業「けやき大通り第一種市街地再開発事業」は物販施設、ホテル、住宅整備を実施し、完成前に住宅棟（78戸）が完売する等、まちなかの賑わいに大きく寄与している。

イベント等ソフト事業において、平成21年6月より商店街等と協働し実施している「わぁーと！手づくり市場」において、通行量がイベント未実施時と比べ約3倍に増加し、多くの集客が見られた。平成24年度においても同様の集客を見せており、協働した結果、行政、民間双方がまちづくりに対する知識を深めることができ、今後の新たなまちづくりへと繋がる可能性を生み出すことができた。また、まちづくり連携事業「まちなか交流スペース『みんなの学校』」において、多くの集客が見られる「キッズ商店街」や「キャンディーラリー&ハロウィン仮装コンテスト」といった各種イベントを週末等を実施しており、賑わいが創出されているとともに、多種多様な活動の場としても数多くの人に利用されており、交流の場としても活発に活用されている。

このように、民間や行政によるまちの賑わいに寄与する様々な取組が実施されているが、現時点において、未だ活性化に至っていない状況である。しかし、民間事業者や商店街による、活性化へ繋がる新たな取組が生まれている。

平成23年度には、民間事業として、中心市街地の飲食店を食べ、飲み歩きするイベント「わかやま城下町バル」が日本最大規模（参加店舗151店）で初開催、まちコン「FIESTA de 城下町」が初開催される等、民間事業がまちの賑わい創出に大きく貢献した。平成24年度においても民間事業者による動きが予想され、行政だけでなく、民間事業者による新たなまちづくりが生まれてきている。

また、民間と行政が参加しているJR和歌山駅前活性化協議会において、平成24年度は民間がクリスマスシーズンに実施しているイルミネーションに加え、行政による和歌山駅前のイルミネーションを実施することが決まり、民間と行政が協働し、活性化に向けて取り組んでいる。

商店街独自の動きも見られるようになっており、平成23年度には活性化アドバイザーを呼び、魅力向上につながる研修等を受けた商店街もある。その結果、店舗の売上向上だけでなく、店主の活性化に対する意識向上、周辺店主への意識喚起にもつながっており、平成24年度においても、地域商店街活性化法に基づき、商店街が主体の新たな取組の動きがみられている。

2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか（個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断）

計画していた全64事業のうち、59事業が完了（野外アートプロジェクト事業（わぁーと！手づくり市場）、城まち eco 観光レンタサイクル事業等は計画終了後も引き続き実施）、1事業が実施途中（本町線道路整備）、4事業（ものづくり工房「ぶらフト」建設運営事業等）は実施条件が整わない、実施の必要性がなくなった等の理由により未着手である。上記から、計画事業としては、概ね完了させることができたが、周辺への波及効果が少ない等、現在のところ当初期待していた効果が出ていないため、未だ活性化にはいたっていないと考えられる。しかし、個々の事業としては賑わいが見られる。

ソフト事業として、平成21年6月から実施している商店街等と協働した「わぁーと！手づくり市場」の通行量は、平成20年6月未実施時の875人に対し、平成23年度平均は2,342人と約3倍の通行量、音楽イベント「ぶらぐりスイング」は平成23年度に15,000人の集客がみられ、イベント未実施時と比べ大幅

に通行量が増加し、多くの集客、賑わいが見られた。

ハード事業として、「けやき大通り第一種市街地再開発事業」で建設した住宅棟(78戸)が短期間で完売し、居住人口が増加していることから、本市ではじめて実施された再開発等のハード整備が有効であることが改めて認識できた。また、中心市街地のシンボルであった旧丸正百貨店が平成19年12月にフォルテワジマビルとして再生し、周辺の通行量に関して、2,000人の増加が見られ、まちの賑わいに大きく寄与している。フォルテワジマがなければ中心市街地はさらに衰退していたと考えられ、フォルテワジマは中心市街地における活性化の大きな役割を果たしている。

3. 活性化が図られた(図られなかった)要因(和歌山市としての見解)

個々の事業としては実施できたものの、現在のところ当初期待していた効果が出ていないため、未だ活性化にはいたっていないと考えられる。ソフト事業は開催時だけの一時的な賑わいにとどまり、継続した賑わいの創出にいたっていない。「旧丸正百貨店ビル暮らし・にぎわい再生事業」や「けやき大通り第一種市街地再開発事業」は実施された地域だけを見れば周辺の賑わい創出に大きな効果を上げているため、街の再生を目指すには継続的な再開発事業を実施するなど商業及び居住人口の増加を念頭に置いたハード整備に重点を置く必要がある。

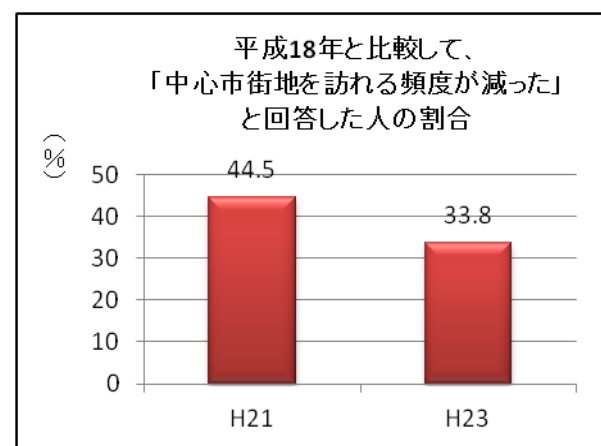
4. 中心市街地活性化協議会として、計画期間中の取組をふり返ってみて(協議会としての意見)

協議会としては、中心市街地活性化基本計画の基本理念である「コンパクトシティ」を目指していたが、和歌山市はコンパクトシティに特化した考え方ではなかったため、議論にミスマッチを起こしてきた。やはり中心市街地の基本的な流れはコンパクトシティであり、コンパクトシティを目指すべきである。

実施事業としては、これまで様々な各種ソフト事業等(野外アートプロジェクト事業、まちづくり連携事業(まちなか交流スペース『みんなの学校』)等)を一つ一つ堅実に取り組んできたが、周辺へ効果が波及する様な連携が出来ておらず、今後の課題となる。また、中心市街地の活性化には居住人口の増加が重要であり、今後具体的施策を考えていくべきである。

5. 市民意識の変化

市民アンケートを実施した結果、中心市街地を訪れる頻度が減った人が44.5%(平成21年度アンケート結果)から33.8%(平成23年度アンケート結果)に減少しており、減少傾向が緩やかになっている。また、中心市街地に対する関心・重要度の問いに関しては、数値としては以前とあまり変化がないものの、自由意見において、商業施設・店舗の充実等の要望、レンタサイクルの充実等、様々なイベント提言、改善策提言が多く見られ、関心を持っている市民は潜在的におり、また、現状の取組の一部に対しては、賛成意見とさらなる拡充を求める要望も散見され、以前と比べ関心を持つようになったと考えられる。



6. 今後の取組

基本計画の期間は終了したが、事業結果・分析結果を踏まえ、特に活性化に寄与している事業(城まちeco観光レンタサイクル事業、まちづくり連携事業(「まちなか交流スペース『みんなの学校』」、野外アートプロジェクト事業(わあーと！手づくり市場)等)は引き続き実施し、上述の「わかやま城下町バル」のように民間の力による新事業が生まれていることから、本市も力を合わせ、中心市街地活性化に寄与する新たな事業を検討していく。

イベント事業においては、一定の集客が実現しているが周辺地域への波及効果がなく限定的で集客に結び付いていない。イベントを継続するだけではなく、今後は波及効果が得られる工夫をする必要がある。

住宅を誘致することは「けやき大通り第一種市街地再開発事業」で見られるよう居住人口を増加させることに効果があった。今後も、都市機能や商業施設が集積した中心市街地の特色を活かし、今年度から取り組んでいる「和歌山市まちなか再生計画(2030和歌山構想)」において再開発事業の推進を図り、引き続き中心市街地の居住人口を増加させ、賑わいの創出に力を注いでいく。

(参考)

各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
城まち賑わい拠点の創出	中心商業地(ぶらくり丁周辺地域)7地点の歩行者・自転車通行量(平日・休日平均)	22,075人 (H18)	26,500人 (H23)	17,107人	H23.9	C
城まち居住の促進	中心市街地の居住人口	11,268人 (H18)	11,680人 (H23)	10,827人	H24.3	C
城まち回遊性の向上	城まちハッピーロードの歩行者・自転車通行量(休日)	9,762人 (H19)	22,500人 (H23)	9,249人	H23.10	C

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b、c は下線を引いて下さい)

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

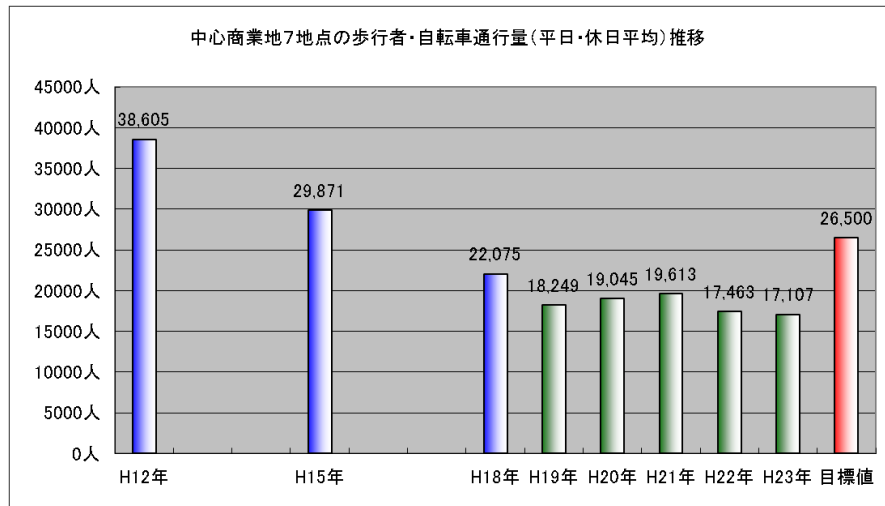
個別目標

目標「城まち賑わい拠点の創出」

「中心商業地（ぶらくり丁周辺地域）7地点の歩行者・自転車通行量（平日・休日平均）」

※目標設定の考え方基本計画 P39～P42 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位：人)
H18	22,075 (基準年値)
H19	18,249
H20	19,045
H21	19,613
H22	17,463
H23	17,107 (目標値 26,500)

※調査方法；各調査地点における2方向別に、歩行者・自転車の通行量を通行形態別に1時間毎に集計

※調査月；9月（平日及び休日）

※調査主体；ぶらくり丁商店街協同組合、和歌山商工会議所、和歌山市

※調査対象；平日（7地点）と休日（7地点）の歩行者・自転車通行量の平均

賑わい拠点創出事業は概ね完了した。「旧丸正百貨店ビル暮らし・にぎわい再生事業」において中心市街地のシンボルであった旧丸正百貨店をフォルテワジマビルとして再生し、周辺の通行量に関して約2,000人の増加が見られ、まちの賑わいに大きく寄与している。また、まちづくり連携事業「まちなか交流スペース『みんなの学校』」において、多くの集客が見られる「キッズ商店街」や「キャンディーラリー&ハロウィン仮装コンテスト」といった各種イベントを週末等を実施しており、賑わいが創出されているとともに、多種多様な活動の場としても数多くの人に利用され、交流の場としても活発に活用されている。このように、各種事業において、賑わいが創出されているが、周辺への波及効果が少ない等、現在のところ当初期待していた効果が出ておらず、目標値および基準値には及ばなかった。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 旧丸正百貨店ビル暮らし・にぎわい再生事業（和島興産株式会社）

支援措置名及び支援期間	暮らし・にぎわい再生事業 平成 18 年度
事業開始・完了時期	平成 18 年度～平成 19 年度
事業概要	「健康」、「文化」、「観光」をキーワードにした複合施設の整備(温浴施設、食料品・日用品店舗、ニットミュージアム、和歌山大学サテライト、イベントホール、カルチャー教室、健康関連施設、飲食店街等)。
目標値・最新値	(目標値) 歩行者・自転車通行量 5,394 人/日 (最新値) 歩行者・自転車通行量 2,054 人/日
達成状況	現時点において達成していないが、年々集客数が増加しており、今後も増加すると見込まれる。
達成した（出来なかった）理由	フォルテワジマ周辺の通行量が 2,000 人増加し、事業効果がみられるが、周辺への大きな波及効果が得られず、目標値には及ばなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	本計画の主要事業と言える本事業を実施したことにより、事業実施箇所周辺の通行量が大幅に増加した。
事業の今後について	実施済み。

②. ぶらくりコミュニティプレイス設置運営事業（株式会社ファーストテイク）

支援措置名及び 支援期間	-
事業開始・完了 時期	平成 21 年度～平成 23 年度
事業概要	中心商業地の空き店舗を利用して、情報発信型の商店街コミュニティ拠点 の設置運営を行う。
目標値・最新値	(目標値) 歩行者・自転車通行量 50 人/日 (最新値) 歩行者・自転車通行量 7 人/日
達成状況	目標値には及んでいないが、フリーペーパーPOINT の発行による音楽情 報の発信や、イベントのコンサルタントを行ったイベント(ぶらくりスイング等) は来客が多く、賑わっている。
達成した（出来 なかった）理由	イベントのコンサルタントを行い、賑わい創出に寄与した(ぶらくりスイングに 関して 15,000 人の集客、他イベントに関しても大きく集客が見られる)が、 集客施設でないため、事業箇所周辺の通行量増加には繋がらなかった。
計画終了後の状 況（事業効果）	イベントのコンサルタントを行い、賑わい創出を図る。
事業の今後につ いて	イベントのコンサルタントを引き続き実施。

③. まちづくり連携事業「まちなか交流スペース『みんなの学校』」（まちづくり連携事業運営委員会）

支援措置名及び支援期間	-
事業開始・完了時期	平成 21 年度～継続
事業概要	中心商業地の空き店舗を活用して、学生を中心とした活動の情報収集・発信等の場を提供するとともに、イベントを実施し集客する。
目標値・最新値	(目標値) 歩行者・自転車通行量 204 人／日 (最新値) 歩行者・自転車通行量 53 人／日
達成状況	現時点において達成していないが、イベント実施時には 200～500 人の集客ができており、今後周知が進むことで集客数、通行量は増加すると考えられる。
達成した（出来なかった）理由	イベント実施時には目標値を大きく上回る集客があり、賑わいが創出されているが、イベント未実施時の通行量増加までは及ばなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	学生や社会人等様々な人にイベント、活動等の場として活用されているとともに、イベント実施時には集客でき、賑わいが創出されている。
事業の今後について	平成24年度から1階の一部に地場特産品店（ぶらくり・わかやマーケット）が移転したことにより、事業PR、利用の相乗効果を狙う。

④. ものづくり工房「ぶらフト」建設運営事業（株式会社ぶらくり）

支援措置名及び支援期間	-
事業開始・完了時期	未実施
事業概要	開発オフィス、クラフト系セレクトショップ、まちづくり会社の拠点も兼ねた小規模複合施設の建設運営。
目標値・最新値	(目標値) 歩行者・自転車通行量 305 人／日 (最新値) -
達成状況	-
達成した（出来なかった）理由	-
計画終了後の状況（事業効果）	-
事業の今後について	-

⑤. 地場特産品店整備事業（財団法人和歌山地域地場産業振興センター）

支援措置名及び 支援期間	まちづくり交付金 平成 20 年度
事業開始・完了 時期	平成 20 年度
事業概要	中心市街地の空き店舗を活用した和歌山県紀北部の地場産品のアンテナ ショップの整備。
目標値・最新値	(目標値) 歩行者・自転車通行量 145 人／日 (最新値) 歩行者・自転車通行量 108 人／日
達成状況	目標値までは及んでいないが、恒常的に集客できており、少なからずにぎ わい創出に貢献できている。また、今後周知が進むことで集客数は増加す ると考えられる。
達成した（出来 なかった）理由	恒常的に 75 人／日の集客はができており、想定していた 100 人より少な かったが概ね達成していると言える。
計画終了後の状 況（事業効果）	恒常的に 75 人／日の集客ができています。
事業の今後につ いて	平成24年度から「まちなか交流スペース『みんなの学校』」の1階に移転し、 事業PR、利用の相乗効果を狙う。

⑥. 紀の国ぶらくり劇場設置運営事業（株式会社紀の国ぶらくり劇場）

支援措置名及び 支援期間	-
事業開始・完了 時期	平成 18 年度～継続
事業概要	旧東映インビル地下東映シネマ跡への大衆演劇場の設置運営。
目標値・最新値	(目標値) 歩行者・自転車通行量 305 人／日 (最新値) 歩行者・自転車通行量 1,392 人／日
達成状況	達成している。
達成した（出来 なかった）理由	居住者、観光者に対して、中心商業地の新しい娯楽施設となっており、演 劇ファンを獲得できたため、目標達成に結びついた。
計画終了後の状 況（事業効果）	居住者、観光者に対して、中心商業地の新しい娯楽施設となっている。
事業の今後につ いて	引き続き運営予定。

⑦. まちプロデュース事業（株式会社ぶらくり）

支援措置名及び 支援期間	-
事業開始・完了 時期	平成 18 年度～継続
事業概要	空き店舗、空き地を活用した新業態の店舗の誘致・再生等まちのプロデュース関連事業。
目標値・最新値	(目標値) 歩行者・自転車通行量 1,196 人／日 (最新値) 歩行者・自転車通行量 1,450 人／日
達成状況	達成している。
達成した（出来 なかった）理由	空き店舗対策事業による補助等との相乗効果もあり、中心市街地での開業希望者が年々増加し、達成に結びついた。
計画終了後の状 況（事業効果）	空き店舗に新業態の店舗や飲食店が入り、賑わいが創出されている。
事業の今後につ いて	引き続き実施予定。

3.今後について

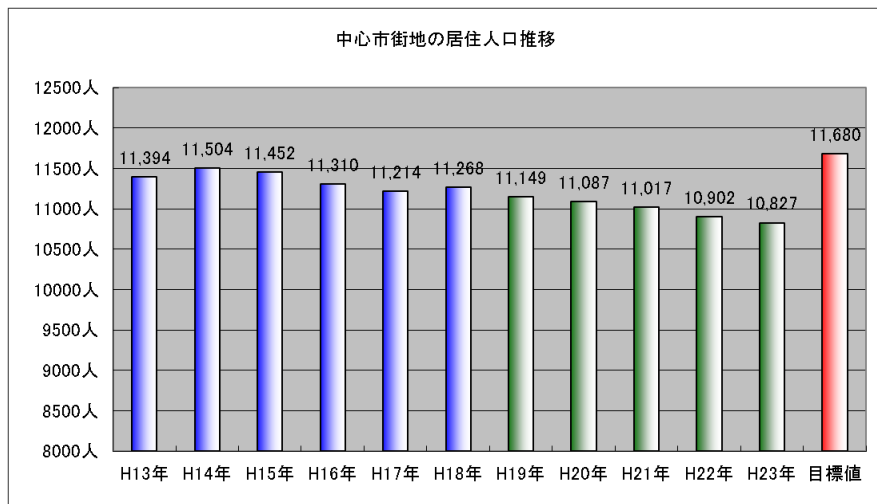
特に活性化に寄与している事業(まちづくり連携事業「まちなか交流スペース『みんなの学校』」等)は継続していく。「まちなか交流スペース『みんなの学校』」の一階に地場特産品店「ぶらくり・わかやマーケット」が移転し、PR、利用の相乗効果を狙うとともに、「まちなか交流スペース『みんなの学校』」で実施するソフト事業を充実させていく。また、イベント時の集客を恒常的な集客に結び付けていくためには各店舗の魅力向上が必要であり、商店街の各店舗の魅力向上等の支援ができるような取組、商店街との「協働」による活性化への取組を検討し、通行量増加へと繋げていく。

個別目標

目標「城まち居住の促進」

「中心市街地の居住人口」※目標設定の考え方基本計画 P42～P44 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位：人)
H18	11,268 (基準年値)
H19	11,149
H20	11,087
H21	11,017
H22	10,902
H23	10,827 (目標値 11,680)

※調査方法；住民基本台帳

※調査月；3月末

※調査主体；和歌山市

※調査対象；中心市街地の住民基本台帳人口

居住促進事業は概ね完了した。「けやき大通り第一種市街地再開発事業」において、住宅棟(78戸)が完成前にも関わらず完売し、「十番丁共同住宅・事務所複合ビル建設事業」においては入居率が90%に上るが、当初の予想より単身世帯の入居が多く、想定していたほど居住人口が伸びなかったため、目標値および基準値には及ばなかった。

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

① けやき大通り第一種市街地再開発事業（昭和倉庫株式会社、独立行政法人都市再生機構）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(市街地再開発事業等) 平成19年度～平成23年度
事業開始・完了時期	平成19年度～平成23年度
事業概要	けやき大通りに駅前の核として複合施設(共同住宅(78戸)・ホテル・医療関連施設・物販関連施設)を整備。
目標値・最新値	(目標値) 居住人口 160人増 (最新値) 居住人口 114人増(H24.3)
達成状況	現時点では達成しておらず、予想より単身世帯の入居が多かった。
達成した(出来なかった)理由	事業実施地域の居住人口は大きく増加しているが、予想より単身世帯の入居が多く、目標には及んでいない。
計画終了後の状況(事業効果)	完成前に住宅棟(78戸)が完売し、事業実施地域の居住人口が大きく増加した。
事業の今後について	実施済み。

② 十番丁共同住宅・事務所複合ビル建設事業（和島興産株式会社）

支援措置名及び支援期間	-
事業開始・完了時期	平成18年度～平成19年度
事業概要	銀行の跡地に商業業務施設付きの共同住宅の整備(共同住宅(6～13階、41戸)、商業業務施設(1～5階、13階))。
目標値・最新値	(目標値) 居住人口 94人増 (最新値) 居住人口 37人増(H23)
達成状況	現時点では達成しておらず、予想より単身世帯の入居が多かった。
達成した(出来なかった)理由	住宅の入居率は90%であるが、予想より単身世帯の入居が多く、目標には及んでいない。
計画終了後の状況(事業効果)	引き続き住宅、事務所等に利用されている。
事業の今後について	実施済み。

3. 今後について

「けやき大通り第一種市街地再開発事業」で建設した住宅棟(78戸)が短期間で完売し、実際に人口が増加していることから、立地条件等、様々な考慮は必要だが、本市で初めて実施された再開発のハード整備が有効であることが改めて認識できた。今後は再開発等の都市機能の整備に重点を置き、新たなランドデザインを定めるための取組として、まちづくり関係者(住民、有識者、商業者、行政等)との「協働」による「和歌山市まちなか再生計画(2030和歌山構想)」を策定し、まちなかに求められる機能や適切な整備手法を検討していき、居住人口の増加へと繋げていく。

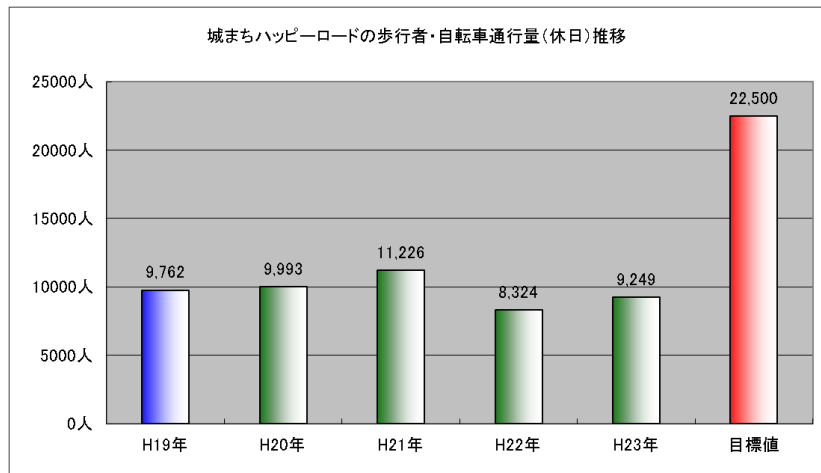
個別目標

目標「城まち回遊性の向上」

「城まちハッピーロードの歩行者・自転車通行量（休日）」

※目標設定の考え方基本計画 P44～P48 参照

1. 調査結果の推移



年	(単位：人)
H19	9,762 (基準年値)
H20	9,993
H21	11,226
H22	8,324
H23	9,249 (目標値 22,500)

※調査方法；各調査地点における2方向別に、歩行者・自転車の通行量を通行形態別に1時間毎に集計

※調査月；6月（休日）

※調査主体；和歌山市

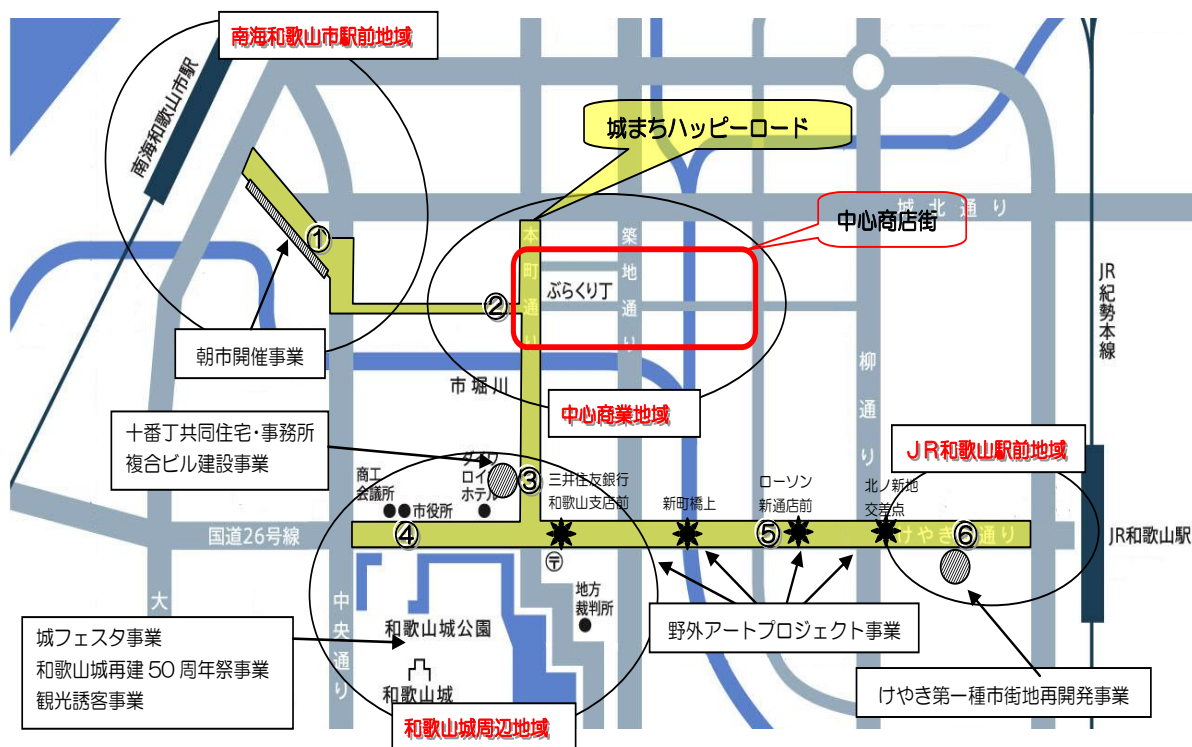
※調査対象；6地点の歩行者・自転車通行量

回遊性向上事業は概ね完了した。「旧丸正百貨店ビル暮らし・にぎわい再生事業」において中心市街地のシンボルであった旧丸正百貨店がフォルテワジマビルとして再生し、周辺の通行量に関して約2,000人の増加が見られ、まちの賑わいに大きく寄与している。また、「野外アートプロジェクト事業(わぁーと！手づくり市場)」では、実施時の通行量が平成20年6月未実施時の875人に対し、平成23年度平均は2,342人と約3倍の通行量が増加し、多くの集客があり、賑わいが見られた。このように、各種事業において、賑わいが創出されているが、イベント実施時の一時的な賑わいにとどまったことや周辺への波及効果が少ない等、現在のところ当初期待していた効果が出ておらず、目標値および基準値には及ばなかった。

(特記事項)

計画に記載している平成 19 年度の「ワジマ十番丁ビル前」の通行量は 3,001 人だが、当時の当該箇所周辺において、集客イベント、工事関係者の通行等、通常の通行量と全く異なる特殊な状況があり、結果として現実と遥かに乖離した通行量が計測されたと考えられる。

本市が国土交通省に認定された都市再生整備計画で採用している同年(平成 19 年 9 月)同地点の通行量は 663 人であり、他地点の通行量と比較した結果からも、663 人の通行量が当時の通常の通行量である可能性が極めて高い。当該調査地点の通行量を 663 人とした場合、基準値は 7,424 人となり、最新値が基準値を上回り、評価はBとなる。



①	和歌山市駅前線船大工町交差点
②	旧丸正百貨店ビル南側
③	十番丁ビル前
④	和歌山市役所前
⑤	けやき大通り坊主丁交差点
⑥	けやき大通り第一種市街地再開発事業実施地点前

調査地点	①	②	③	④	⑤	⑥	合計
平成 19 年 調査結果	851	946	3,001 ↓ 663	1,739	1,310	1,915	9,762 ↓ 7,424

2. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

①. 旧丸正百貨店ビル暮らし・にぎわい再生事業（和島興産株式会社）

支援措置名及び支援期間	暮らし・にぎわい再生事業 平成 18 年度
事業開始・完了時期	平成 18 年度～平成 19 年度
事業概要	「健康」、「文化」、「観光」をキーワードにした複合施設の整備（温浴施設、食料品・日用品店舗、ニットミュージアム、和歌山大学サテライト、イベントホール、カルチャー教室、健康関連施設、飲食店街等）。
目標値・最新値	（目標値） 歩行者・自転車通行量 5,770 人増加 （最新値） 歩行者・自転車通行量 85 人増加
達成状況	現時点において達成していないが、年々集客数が増加しており、今後の通行量増加が見込まれる。
達成した（出来なかった）理由	フォルテワジマ周辺の通行量が 2,000 人増加し、事業効果がみられるが、周辺への大きな波及効果が得られず、目標値には及ばなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	本計画の主要事業と言える本事業を実施したことにより、フォルテワジマ周辺の通行量が大幅に増加した。
事業の今後について	実施済み。

（特記事項）

本事業の目標値は「ワジマ十番丁前」通行量を考慮し設定しており、通行量 663 人を用いて評価を行うと下記のとおりである。

（最新値）歩行者・自転車通行量 2,423 人増加

②十番丁共同住宅・事務所複合ビル建設事業（和島興産株式会社）

支援措置名及び支援期間	-
事業開始・完了時期	平成18年度～平成19年度
事業概要	銀行の跡地に商業業務施設付きの共同住宅の整備（共同住宅（6～13階、41戸）、商業業務施設（1～5階、13階））。
目標値・最新値	（目標値）歩行者・自転車通行量 440人増加 （最新値）歩行者・自転車通行量 100人減少
達成状況	現時点では目標に及んでいない。
達成した（出来なかった）理由	フォルテワジマの開業により、回遊性が向上したが、Wajima 十番丁ビルの入居者が、想定していたよりも単身世帯が多く、通行量増加に繋がらなかった。
計画終了後の状況（事業効果）	事務所、飲食店等に利用されている。
事業の今後について	実施済み。

（特記事項）

本事業の目標値は「ワジマ十番丁前」通行量を考慮し設定しており、通行量 663 人を用いて評価を行うと下記のとおりである。

（最新値）歩行者・自転車通行量 2,238 人増加

③. 城フェスタ事業・和歌山城再建50周年記念祭事業・観光誘客事業（和歌山市）

支援措置名及び 支援期間	<p>【城フェスタ事業】 中心市街地活性化ソフト事業(平成19年度～平成20年度)</p> <p>【和歌山城再建50周年記念祭事業】 まちづくり交付金(平成20年度)</p> <p>【観光誘客事業】 中心市街地活性化ソフト事業(平成21年度～平成23年度)</p>
事業開始・完了 時期	平成17年度～継続
事業概要	和歌山城を中心としたイベントや講座などの「城フェスタ」の開催。和歌山城再建50周年と市制120周年を記念した様々な催しや関連行事、記念事業の開催。和歌山城を中心とした観光誘客イベントの開催。
目標値・最新値	(目標値) 歩行者・自転車通行量 271人増加 (最新値) 歩行者・自転車通行量 2,136人減少
達成状況	目標には及んでいないが、イベント実施時には数多くの集客がみられ、通行量増加、賑わい創出に多大に貢献している。
達成した(出来 なかった)理由	城フェスタで実施したアンケートでは95%が良かったと回答しており、イベント実施時には数多くの集客がみられ賑わいが創出されているが、恒常的な通行量増加に結びつかず、目標には及ばなかった。
計画終了後の状 況(事業効果)	本事業で実施したイベント(竹燈夜、ぶんだら、食祭、市民茶会等)は市の主要観光イベントとなっており、賑わいが創出されている。
事業の今後につ いて	特に効果が認められるイベント(竹燈夜、ぶんだら、食祭、市民茶会等)に関して、引き続き実施。

(特記事項)

本事業の目標値は「ワジマ十番丁前」通行量を考慮し設定しており、通行量663人を用いて評価を行うと下記のとおりである。

(最新値) 歩行者・自転車通行量 202人増加

④. けやき大通り第一種市街地再開発事業（昭和倉庫株式会社、独立行政法人都市再生機構）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(市街地再開発事業等) 平成 19 年度～平成 23 年度
事業開始・完了時期	平成 19 年度～平成 23 年度
事業概要	けやき大通りに駅前の核として複合施設(共同住宅(78戸)・ホテル・医療関連施設・物販関連施設)を整備。
目標値・最新値	(目標値) 歩行者・自転車通行量 1,276 人増加 (最新値) 歩行者・自転車通行量 2,480 人減少
達成状況	現時点では目標に及んでいない。
達成した(出来なかった)理由	数値計測時には住宅棟、ホテル棟が完成しておらず、その後、居住人口が増加していることから、今後、事業実施箇所周辺の通行量は増加する見込みである。
計画終了後の状況(事業効果)	完成前に住宅棟(78戸)が完売し、居住人口増加、通行量増加へ繋がっている。
事業の今後について	実施済み。

(特記事項)

本事業の目標値は「ワジマ十番丁前」通行量を考慮し設定しており、通行量 663 人を用いて評価を行うと下記のとおりである。

(最新値) 歩行者・自転車通行量 142 人減少

⑤. 和歌山大学学生による移動型オープンカフェ実施事業（わかやまヒューマンカレッジ・アフターの会（和歌山大学））

支援措置名及び支援期間	市補助事業
事業開始・完了時期	平成 19 年度～継続
事業概要	和歌山大学生による移動型オープンカフェの実施
目標値・最新値	(目標値) 歩行者・自転車通行量 7 人増加 (最新値) 歩行者・自転車通行量 154 人増加
達成状況	達成している
達成した（出来なかった）理由	商店街や民間企業との協働、ゆるキャライベント等、趣向を凝らした開催が 71 人(平成 23 年度平均)集客に結びついた。また、フォルテワジマの開業により、回遊性が向上し、通行量が増加したと考えられる。
計画終了後の状況（事業効果）	京橋だけでなく、和歌山城等各地で実施しており、いずれも集客がみられる。
事業の今後について	継続して実施。

（特記事項）

本事業の目標値は「ワジマ十番丁前」通行量を考慮し設定しており、通行量 663 人を用いて評価を行うと下記のとおりである。

（最新値）歩行者・自転車通行量 2,492 人増加

⑥. 城まち青空市開催事業（和歌山市中心市街地活性化協議会・和歌山市駅前中央商業会）

支援措置名及び支援期間	-
事業開始・完了時期	平成 19 年度～企画立案 平成 21 年度～事業実施
事業概要	和歌山市駅前広場で青空市を開催。
目標値・最新値	(目標値) 歩行者・自転車通行量 259 人増 (最新値) 歩行者・自転車通行量 1,967 人増
達成状況	達成している。
達成した（出来なかった）理由	新鮮な和歌山ならではの海と山の幸を1箇所で購入できることが魅力となり、500 人(平成 23 年度平均)の集客に結びついた。また、フォルテワジマの開業により、回遊性が高まり、通行量が増加したと考えられる。
計画終了後の状況（事業効果）	事業終了。
事業の今後について	事業終了。

⑦. 野外アートプロジェクト事業「わぁーと！手づくり市場」（和歌山市）

支援措置名及び 支援期間	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画) 平成 21 年度～平成 23 年度
事業開始・完了 時期	平成 21 年度～平成 23 年度
事業概要	中心市街地の骨格道路であるけやき大通り沿道と本町通りにおいて、アートをテーマとした定期的なイベントを行う。
目標値・最新値	(目標値) 歩行者・自転車通行量 259 人増 (最新値) 歩行者・自転車通行量 2,585 人減
達成状況	目標には及んでいないが、イベント実施時には未実施時の約3倍の通行量が見られ、賑わいが創出されている。
達成した（出来 なかった）理由	来場者と出展者のアートを通じたふれあいや、音楽イベント、ふるまい等により、来場者はもとより出展者も満足できるよう趣向を凝らしたことが出展品の充実にも繋がっており、開催時のJR和歌山駅前けやき大通りでは未実施時の約3倍の通行量増加が見られる。
計画終了後の状 況（事業効果）	開催を心待ちにしている声も多く、開催時には多くの集客がみられる。
事業の今後につ いて	平成 23 年度までは「荒天中止」だったが、平成 24 年度からは「荒天翌日順延」とし、来場者、出展者双方にさらに満足いただける方法を検討し、実施していく。

（特記事項）

本事業の目標値は「ワジマ十番丁前」通行量を考慮し設定しており、通行量 663 人を用いて評価を行うと下記のとおりである。

（最新値）歩行者・自転車通行量 247 人減少

3. 今後について

特に活性化に寄与している事業(野外アートプロジェクト事業、城まち eco 観光レンタサイクル事業等)は継続する。

ソフト事業として、「城まち eco 観光レンタサイクル事業」において、JR 和歌山駅前の「わかちか広場」をはじめとした複数箇所の拠点においてレンタサイクル事業を実施しており、貸出数は実施当初の平成22年8月は345台だったが、平成23年8月には870台となった。今後は営業時間の延長や自転車の種類(スポーツタイプ)を増やす等、回遊性向上のための仕組みを検討していく。

ハード事業として、岡公園の茶室、茶庭を整備し、平成24年5月のお披露目会において来場者は190人であり、今後、茶会や稽古の場として多くの使用が見込める。また、南海和歌山市駅前線の老朽化が激しく安全性を欠いていたため、歩行者に歩きやすい透水性舗装を行い、歩行環境の改善を行った。今後も回遊性向上のための環境整備を検討していく。

新事業として、平成24年度は民間がクリスマスシーズンに実施しているイルミネーションと協力し、和歌山駅前でクリスマスイルミネーションを実施し、賑わい創出を図る。

民間事業として、平成23年度に日本最大規模(参加店舗151店舗)で開催された中心市街地の飲食店を飲み、食べ歩きするイベント「わかやま城下町バル」が、平成24年度も引き続き開催される見込みであり、民間事業者の活性化に向けた動きも活発になっている。

今後もハード整備とソフト事業を組み合わせ、商店街、民間事業者等と連携を図りながら地域ぐるみで活性化に向けて取り組んでいく。